

施設紹介 (第9回)

社会福祉法人 京都博愛会病院

〒603-8041 京都府京都市北区上賀茂ケン山1
TEL:075-781-1131(代) FAX:075-722-9400
http://www.kyoto-hakuikai.or.jp/hakuai/



社会福祉法人京都博愛会京都博愛会病院は京都市洛北に位置し、国の天然記念物と指定されパワースポットとして有名な深泥が池の畔にある390床の病院です。昭和3年に結核保養院として創設されましたが、現在は急性期から回復期・維持期まで対応できる総合的な病院として、地域の皆さまに良質な医療介護を提供しています。

リハビリテーション科は昭和61年より理学療法士1名作業療法士2名で開設され、62年4月よりリハビリテーション(以下リハ)医が加わり、リハ科外来を開始しています。平成3年より言語療法士(当時)が加わり、リハ3本柱で入院外来治療を行ってきました。平成10年からは訪問リハを開始しています。平成20年5月リハ訓練室が増築棟に350平方メートルに拡張され、平成21年2月に同一法人の病院の再編に伴い回復期リハ病棟を30床で開設しています。リハ科スタッフは専門医1名、理学療法士15名、作業療法士8名、言語聴覚療法士2名、診療補助員2名です。リハ施設基準は脳血管(I)運動器(I)呼吸器(I)を取得しています。

当院は回復期リハ病棟30床の他、一般病床60床、障害者病床60床、医療療養型病床54床、精神科病床186床で構成され、急性期から回復期・維持期を担う役割を有しております。院内急性期患者の患者以外に、脳卒中連携バスの患者、脳外傷で亜急性期の精神的に混迷状態にある患者を精神科で受け入れています。精神科医師と共にリハ介入しながら、精神症状が安定して高次脳機能障害が主症状となる時期にリハ科転科するという切れ目のないリハ治療が可能となっています。整形疾患としては、当院の整形外科の術後の患者以外にも京都府の大腿骨近位部骨折の地域連携バスの患者、京大病院整形外科の術後の患者を積極的に受け入れています。神経内科疾患では、障害者病床に入院される、パーキンソン病の薬剤調整入院や多発性硬化症の急性増悪の患者が多いのが特徴です。

リハ科外来診察は週3日(月・水・木)で装具外来日が週2日あります。嚥下造影検査は週1日1~2例施行しています。

リハ科スタッフは病院リハ部門、回復期リハ部門、訪問リハ部門に分けられ、ローテーションすることで幅広く研鑽を積めるようにしています。訪問リハ部門は平成22年9月より、3人体制となり、回復期リハ病棟を退院した患者の在宅療養のソフトラッキングをサポートできるようになりました。

疾患別のリハ期間が設定されて久しいですが、重度の脳血管障害や頸髄損傷の患者でも、目標レベルADL獲得して在宅療養に移行する際、医療療養型病床で延長リハ施行して安全な在宅療養を獲得できることは複数の施設基準を持つ当院の特徴といえます。

回復期リハ病棟の開設とともに地域連携室のスタッフも増え、高次脳機能障害患者の社会支援の制度利用に積極的に取り組み、精神科医による精神障害福祉手帳取得手続きをタイムリーに行えています。

今後、回復期リハ病棟の365日リハを提供すべく準備中です。ご指導宜しくお願いします。
(リハビリテーション科部長 富田素子)

那智勝浦町立温泉病院

和歌山県立医科大学スポーツ・温泉医学研究所
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町大字天満483番地1
TEL:0735-52-1055 FAX:0735-52-3853
http://www.14.ocn.ne.jp/~onsenhsjp/



当院は、紀伊半島南部に位置する那智勝浦町にあり、ベッド数150床(一般90、療養60)の内科、整形外科を中心とした地域密着型の公立病院です。また、和歌山県立医科大学スポーツ・温泉医学研究所を院内に併設しております。那智勝浦町内には、日本有数のマグロ水揚げ量を誇る勝浦漁港があり、さらに数多くの温泉と世界遺産に登録されている那智の大滝や熊野古道なども有する漁業と観光の町です。

しかし、近年はこの那智勝浦町にも過疎化、高齢化の波が進み、平成19年には医師不足から常勤医が6名となり病院存続が危ぶまれる状況となりました。そこで、新たな試みとして町と和歌山県立医科大学の協力により、平成20年にスポーツ・温泉医学研究所が院内に開設されました。これに合わせ、和歌山県立医科大学リハビリテーション科田島文博教授が研究所所長に就任し、大学リハ科から2名の医師が研究所研究員を兼ね赴任しました。更に、和歌山県立医科大学の協力などを得て常勤医が10名となり、病院の存続が可能となりました。現在は常勤医11名となり、大学リハ科からは4名の医師が派遣されています。このうち2名が内科医、1名が整形外科医、1名がリハ科医として勤務しています。少し驚かれるかもしれませ

んが、そもそもリハ医は臓器別の疾患を対象としないため全身管理が行え、運動器疾患も診る事ができます。このため、指導医がいれば内科医としても整形外科医としても勤務することが可能です。こういう面では、少ない医師数で多くの疾患に対応しなければならない地域医療ではリハ医は重要であると言えます。

当院のリハビリテーション科は、平成20年における大学リハ科からの医師派遣後よりリハ科外来診療をスタートさせました。さらに、平成21年よりは、リハ科への入院の受け入れもスタートさせました。現在、リハ科専属医師1名、非常勤医師1名、理学療法士8名、作業療法士6名、言語聴覚士1名、兼任医療ソーシャルワーカー2名、兼任看護師1名のスタッフにて診療にあたっています。当院が位置する新宮・東牟婁医療圏(和歌山県南部:人口約8万人の地域)には、当院も含め回復期リハビリテーション病棟を持つ病院がありません。このため、この地域における回復期リハの役割の多くは当院リハ科が行っています。地域柄、対象患者の多くは高齢者ですが、脳卒中、脊髄損傷をはじめ神経筋疾患、骨関節疾患、透析患者などの内部疾患など全ての疾患のリハビリに対応しています。当院のリハビリの特徴は、個々の患者さんの運動

量の多さです。リハビリは、患者さん自身の努力なくしてベストな結果を得ることは出来ません。当院では老若男女問わず、とにかく一生懸命リハビリをしています。

スポーツ・温泉医学研究所では、大学リハ科よりの派遣医4名および和歌山県立医科大学大学院修士課程に在籍している当院理学療法士2名の計6名が研究員として研究を行っています。主な研究設備には、温泉療法をおこなう事ができる温水プールをはじめ、自律神経活動などの電気生理学的評価をおこなう筋電図計を含む測定機器、呼吸代謝測定器、心拍出量測定器、発汗量測定器、皮膚血流測定器、血液分析装置など最新の機器がそろっています。研究テーマとしては、温泉浴による内分泌系や循環調節系に及ぼす影響、温泉浴と運動を併用した時の身体への効果、温熱刺激による自律神経活動への影響などがあり、主に温泉(温熱効果も含む)と運動に焦点をあてた人を対象とした研究を進めています。この那智勝浦の地より、世界レベルの研究成果を示すべく研究に取り組んでいます。

那智勝浦町立温泉病院リハビリテーション科 部長
和歌山県立医科大学スポーツ・温泉医学研究所 副所長
中村 健